

# 化学教育 徒然草



## 個性を伸ばす教育

TSUNODA Kin-ichi

角田 欣一

群馬大学大学院理工学府 教授  
「化学と教育」誌担当 理事



巻頭言

小中高校生時代の教育が、人の将来や人格形成に大きな影響を与えることは言うまでもない。特に、そこで巡り合う先生の役割は重要であると思う。私も多くの優れた先生方の薫陶を受けて今日がある。特に、私が今でも心より感謝し尊敬している方が、故郷の福島県郡山市の小学校で4年途中から6年生までの約3年間を担任してくださった佐久間末雄先生である。

先生は理科がご専門であった。転校生であった私は、当初はやや緊張の毎日であったが、先生はクラスの中の係として私を飼育栽培係に割りふってくださった。この係の仕事は、主に学校の花壇の世話である。先生と級友数人と一しょに、水をやったりマリーゴールドの苗を植えたりしたあと、先生は私たちをよく野外の植物採集に連れ出してくださいました。私の小学校の近くには、田んぼや野原が広がる自然があった。そこで先生は様々な植物の名前や特徴を教えてくださいました。その時私は、先生の知識を素晴らしいと思った。植物に大いに興味をもち、親にねだって顕微鏡を買ってもらい、植物の葉の表皮の観察に明け暮れたりした。最終的に選んだ化学とは分野こそ異なるが、これが私の自然科学事始めであった。

先生は今もご健在で、時々同級会が開かれる。先生は私たち教え子よりもお元気で矍鑠かくしゃくとされている。その後始められた書道でも一流となられ、素晴らしい書をいつもいただいて帰る。その会で改めて驚かされるのは、同級生たちの先生の思い出がまちまちであることである。絵が得意だった級友は、先生にもらった絵の具のことが忘れられないという。ある級友はバトントワラーに選んでもらって指導を受けたことが忘れられないという。私は植物に関する好奇心を喚起していただいたことが一番印象に残っている。先生は、当時を振り返えられ、個性を伸ばす教育という考えが定着し始めたころで、それを実践しようとしていたとおっしゃっている。そこには児童一人ひとりに向き合った本当の教育があったのだと思う。

私は大学教員として約30年を過ごし、定年を迎えようとしているが、漫然と行ってきた講義や研究室での指導を考えると内心じくじ忸怩たるものがある。自分の情けない板書を見る毎に、先生の美しい板書を思い出し、教育者として先生の足元にも及ばなかったと思う今日この頃である。

[連絡先]

376-8515 群馬県桐生市天神町 1-5-1 (勤務先)